



第23回 養父市国家戦略特別区域会議

養父市提出資料



自家用有償観光旅客等運送事業(通称「やぶくる」)の運行エリアの見直しの効果

背景と課題

- 養父市の地形的特色から、日常生活などの移動の大半を自動車や路線バスに頼らざるを得ないが、人口減少等により路線バスやタクシー事業者においても運転手不足が深刻化している

→ 自家用車のない市民・観光客は養父市内での移動手段について多様な選択が困難

2018年5月 YABUKURU 運行スタート

- 当初の運行エリアは大屋・関宮地域のみ。運行エリア外にある鉄道駅、中核病院、複合商業施設に利用者が移動するためには、路線バスやタクシーへの乗り継ぎが必要

→ 交通・医療・買い物面で地域間格差が発生

→ 他の交通手段より利便性が低く、利用件数・利用人数が伸び悩み



- 2024年4月から「やぶくる」の運行エリアを見直し、市全域に拡大
既存の運行エリア外にある鉄道駅、中核病院、複合商業施設等へスポット運行を開始

→ 地域間格差が緩和するとともに二次交通への接続も改善

→ 利便性が向上したため、利用件数・利用人数が対前年比ほぼ2倍

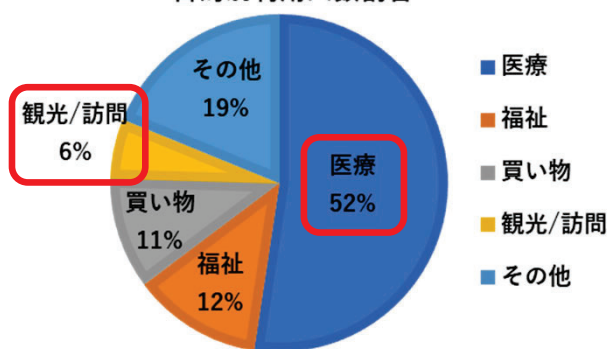
→ 特に医療目的での利用が増加 (対前年比2.8倍、全体の52%)

「やぶくる」利用件数・利用人数

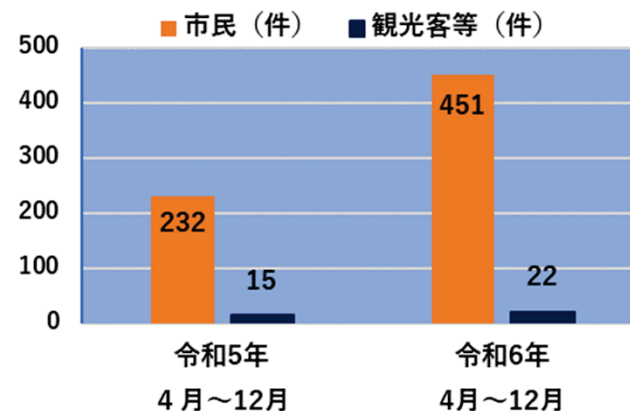
	令和5年 4月～12月	令和6年 4月～12月	前年 対比率
利用件数(件)	247	473	191%
利用人数(人)	325	664	204%
-医療	123	348	283%
-福祉	39	82	210%
-買い物	49	71	145%
-観光/訪問	28	38	136%
-その他	86	125	145%

令和6年4～12月「やぶくる」

目的別利用人数割合



市民・観光客等の利用件数の比較



運行エリアの見直しの効果

■ 今後の展望

- 医療目的での利用に大きな効果を見られる。今後も利用者の『声』を参考にスポット運行の拡大を検討
- 市民以外で観光/訪問目的での利用を推進するため、自家用車を持たない観光客/訪問客へPRを検討
- 「やぶくる」の運転手(令和6年12月末時点で7名が稼働)を確保し、持続可能で安定的な事業運営体制を構築

展望